

# 2022年度 倫理委員会（第1回定例会）議事録

開催日：2022年6月18日（土） 13:30～17:00

場 所：九州本部会議室での対面式とWEB式を併用したハイブリット会議

参加者：委員14名出席（5名欠席）、オブザーバー5名出席

議事録：西井（文責）

## 1. 特別講演：技術者に求められている倫理（DO no harm）

今回は、技術者倫理研究会（日本技術士会登録グループ）代表の橋本義平氏を招いて、「技術者に求められている倫理」と題して特別講演をいただいた。

この講演では、技術士に求められるプロフェッションとは何か、またプロフェッショナルな技術者は価値判断の基準や定義を把握しておかねばならないことが述べられた。また技術士は公衆の利益を常に意識しておくことが大事であり、そこには「お天道様が見ている」という自省の心こそが重要とも話された。詰まるところ、技術士として自分が正しいかを問う独自の規範にこそ、プロフェッショナルの本質がある。

さらに、自動車メーカーで生じたいろいろな不正問題を題材に、そこに関わった技術者の立場や企業のガバナンスについて、具体的な紹介と講演者の思いが述べられた。

講演後、活発な質疑応答が交わされた。特に大学等の教育機関での技術者倫理教育の重要性については、講演者と聴講者で貴重な経験談が相互に紹介された。

## 2. 九州版倫理テキストにおける事例研究（データ改竄への対応）

この事例研究報告は、講演者が環境計測士として実務で関わったデータ改ざん要求の事例紹介と、その顛末についての技術士としての思いが紹介されたものであった。

事の顛末として、改ざんを受け入れたとき、一時的にストレスから解放できたと安堵するかもしれないが、事後の信頼性を考えたとき、改ざん要求を断ったことは正しい判断だったと考えている。

質疑応答でも、講演者が語った道徳的束縛からの解放メカニズムについて、得心したとの意見が複数あった。またこの報告でも、「お天道様が見てるよ」の考えで自省することの重要性が再認識された。

## 3. 中国本部との連携イベントの紹介

連携交流タスクチームが進めている「中国本部が企画するイベント」への参加について、現状等の説明があった。中国本部倫理委員会が主催する連携イベント（11月開催）に対し、九州本部からの参加を呼びかけられたものである。このイベントは、中国本部から1題、技術者倫理研究会から1題、九州本部から1題の計3題の講演形式であり、九州本部・中国本部の初めての連携イベントとなる。実施は技術者倫理研究会の定期講演会の枠組みで企画されたものとなる。

この準備に当たっては、引き続き連携タスクチームが担当し、中国本部とWEB会議を通じて準備を進めて行くことが承認された。

## 4. タスクチームからの活動状況報告

### 4-1 活動管理タスクチームからの報告

第2部と3部の締め切りを延長させたとの報告があった。また事例報告者はパワーポイントの発表スライドを作成すると同時に、講演シートの作成も徹底することが確認された。

さらに著作権への対応として、第3者の著作物から引用したものには必ず出典先を記すことも確認した。

### 4-2 倫理研究タスクチームからの報告

第2回定例会で、2021年度第4回定例会で開催した第1回ディスカッションイベントを、内容を発展させた形で第2回を開催する。ディスカッションメンバーは倫理委員会の中から公募する。コーディネーターは、タスクチーム内で選定する予定である。オブザーバー（ご意見番の役割）は、倫理委員会の中から人選し、直接依頼する。

これが成功した暁には、来年度の中国本部との連携イベントに活用することが考えられる。

## 5. 会務報告と意見交換、その他

### 5-1 次回の第2回定例会

日時：9月10日（土）13：30～17：00

場所：九州本部会議室または貸会議室での対面式およびWEB式の併用。ただし感染状況により、全面WEB式に切り替えることある。

内容：①第2回ディスカッションイベント、②タスクチーム報告、③会務報告

議事録：下津委員

### 5-2 その他

技術士だより秋季号の原稿投稿者は佐竹委員、冬季号は河本委員にお願いすることになった。

また次の事例報告は、第3回定例会（11月26日）で、末松委員に「PL裁判事例」について発表していた  
だくことに決まった。

以上